

## 夜の水彩カフェテラス

～水辺空間を舞台とした地域の文化的創造実験Ⅲ～

関東ブロック 須永 倅子

### 旧中川という場所のポテンシャル

江東区には、小名木川、仙台堀川など、江戸期以降に掘られた人工の掘割が縦横に張り巡らされている。これに対し、区の東側を南北に流れる旧中川は、元の自然河川の地形を活かしたまま整備されている。

蛇行するこの川は、帆船の航行に具合がよく、昔は物流の幹線として船が行き来し、江戸への入り口(関所)として、船番所が置かれた重要な場所でもある。現在は治水のためのバイパスとして、荒川放水路ができて、旧中川の上流部は排水機場で閉じられた。下流部もロックゲート(閘門)で閉じられている。



旧中川と、川の駅の位置関係

川が閉じられ、水位を下げたことで、コンクリート護岸がいらなくなり、これを外して水辺と人との距離が近い、多自然型護岸の手法で整備することが可能になった。都内でも珍しい景観を持つ河川である。

下流の船番所跡付近には、多様な水辺の拠点として公園が整備された。計画した江東区土木部では、日常使いを考慮し、簡単な飲食のできる賑わい施設や、川床、多目的スロープ、手漕ぎ船の乗

船場をつくり、公園の様々な利用に関する規制緩和を実施し、使い方の幅を広げた。

平成 25(2013)年 3 月 7 日には、完成を祝したオープニングイベント、“リバーフェスタ江東「旧中川・川の駅 川びらき」”が開催された。このイベント時に、私が理事長を務める NPO「江東区の水辺に親しむ会」が、地域団体として運営を受け入れたことが、この場所にかかわるきっかけとなった。



リバーフェスタ江東のオープニングの様子

### 夜の水彩カフェテラス

2022 年 5 月 7 日(土)に、3 年ぶりに開催された本イベントは、午前中の準備段階で雨に降られたものの、昼頃にはやみ、それに合わせて来場者も徐々に増えた。

実施内容は下記のとおりである。

#### ① テント出店(飲食、物販、ワークショップ)

前回まで参加していた地元飲食店やキッチンカーの他、他地域団体、大学等にも声をかけ、出店数を増やして実施した。

#### ② 会場演出

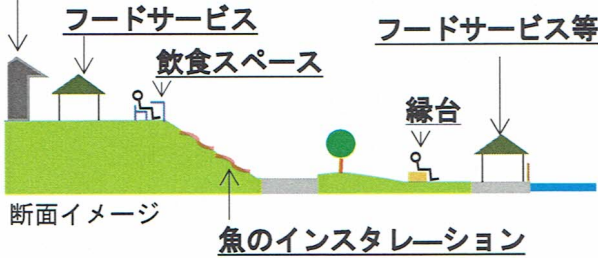
会場の高低差をいかし、飲食スペースはあえて上の方に設置、川が見渡せる位置にあることで、空間の広がりを感じられるようしつらえた。下の方には、水の近くでゆったりくつろいでもらう場所として、新たに縁台をつくり、設置した。縁台

は足元を行灯状にし、内側から淡く光るように演出した。



会場配置概要

**にぎわい施設**



内側から淡い光を放つ緑台

その他の会場演出としては、店舗照明を増やした他、前回同様、近隣の保育園児たちに彩色してもらった魚を斜面に飾り、一つの作品とした。



魚のインスタレーション

③ 移動型蓄電池の点灯実験

今回新たに地元企業からの協力を得て、移動型蓄電池を使用した、店舗照明の点灯実験を行った。日中、会場で太陽光パネルを広げ充電し、日没後に照明用の電力として利用した。これは停電時の電力供給の可能性を探る実験としても有効であると考えたものだったが、防災的観点からの実験ができたと同時に、近くに電源のない川沿いにも店舗を設置することが可能となった。



天井に太陽光パネルを搭載した移動式蓄電池 (写真右側)

④ 水面の利用(ナイトクルーズとラジコンヨット)

毎年恒例のナイトクルーズは、イルミネーションで飾られた船で運航、3便、計36席がすぐに予約でいっぱいになった。事前予約制であるにもかかわらず、当日乗船希望者も多数あった。

毎週末日中活動しているラジコンヨットの同好会は、夜ライトアップしたラジコンヨットを水面に浮かべ、会場演出に一役買ってくれた。



イルミネーションを付け走るラジコンヨット

来場者の反応

コロナ禍で、久しぶりのイベント開催となったこともあり、予想以上に人がたくさん集まった。

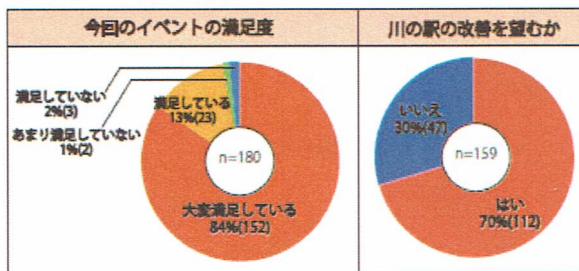
開催問合せの電話もなりっぱなしの状態だった。

芝浦工業大学の学生には、簡易アンケート(ボードにシールを貼ってもらう形式と、一部の回答者への聞き取り調査)を実施してもらった。

その結果、本イベントについて、「大変満足している」、「満足している」合わせて、97%という回答を得た。川の駅の改善については、70%から改善して欲しいという回答があり、座れる場所を増やして欲しい、にぎわい施設の品揃えを増やして欲しい等、今後もこの空間を利用したいという意思が感じられた。

聞き取り調査では、定期的にイベントを行って欲しいという意見が多かった。

#### アンケート調査結果



訪れる人の動きを見ていると、会場は混雑していたが人の出入りは少なかった。滞留時間が長かったからではないか。加えて、近所から来た人が多かったのではないかと考えられる。

#### 今後に向けて

今回の来場者の多さは、一時的なものとも考えられるが、イベント自体の知名度は上がったといえる。これまでは、たくさんの人に訪れてもらえるように、昼頃から開催していたが、今後は、本来の目的である夜の利用に特化して実施する案も出ている。また、よりゆったりと楽しめるような使い方も提案していきたい。

さらには、対岸の江戸川区とも協力し、より視野を広げたイベントを検討することにより、全体的なまちづくりにもつなげていきたい。これは、防災的な視点からも重要であるといえる。

